

7月13日から岡山シティミュージアム

世界大恐竜展



ティラノサウルスの亜成体・ジェーンの全身骨格標本

地上最強、最大は俺たちだ！太古に君臨した恐竜の生態に迫る、こくみん共済coop岡山スペシャル「よみがえる地球の覇者！世界大恐竜展」が7月13日から、岡山シティミュージアム(岡山市北区駅元町)で開かれる。

ご存じ「暴君」ティラノサウルス、山のような巨大の竜脚類ディプロドクスの。恐ろしくも雄大な全身骨格標本、当時の姿を生々しく復元した生体模型、実物の化石などが集結する。恐竜が初めて登場する三畳紀(約2億5千万〜2億年前)、温暖化に伴い大型化が進むジュラ紀(約2億〜1億4500万年前)、大陸が分裂して各地で多様な種が跋扈する白亜紀(約1億4500万〜6600万年前)まで、時代を超えた約80点が会場にらみ合う姿は壮観だ。

ディプロドクスの全身骨格は全長が27メートルに達する。「20メートルを超える恐竜標本が、岡山で展示されるのは初めて」(石垣忍・岡山理科大学生物地球学教授)という前代未聞の巨大さだ。大人の身長ほどもある脚骨、うねるように伸びた首やしっぽなど、大地をわが物顔でのし歩いたであろう圧倒的な威容に息をのむ。

ジュラ紀の定番で、子どもに人気の高いステゴサウルスやアロサウルスの全身骨格のほか、最初期の恐竜ヘルレラサウルス、鳥類に近い羽毛恐竜アンキオルニスの生体復元なども注目される。

会場には本物の恐竜化石に触れられるコーナーやアノナイト類の発掘体験コーナーも用意。ティラノサウルスの背中に乗って写真撮影できる「恐竜ライド」も楽しめそうだ。(宗宮正行)



ディプロドクスの全身骨格標本



アロサウルスの全身骨格標本



ステゴサウルスの全身骨格標本



ヘルレラサウルスの生体復元模型

ティラノサウルス襲来



復元画・月本佳代美 (*復元画はイメージです)

骨格標本や生体復元80点

タルボサウルス **アジア最強** 参戦 岡山理科大協力「研究の一端に触れて」

こくみん共済coop岡山スペシャル「よみがえる地球の覇者！世界大恐竜展」

7月13日～9月1日、岡山シティミュージアム(岡山市北区駅元町)で開催。主催は岡山シティミュージアム、RSK山陽放送、山陽新聞社。特別協賛はこくみん共済coop岡山。入場料は前売り券(7月12日まで販売、かっこ内は当日料金)＝一般1100円(1300円)、小中高生600円(800円)、未就学児(3歳以上)300円(500円)、2歳以下無料。



「これほど各時代の多彩な恐竜標本が並ぶ展覧会は岡山では初めて。じっくり楽しんでほしい」と話す石垣教授

巨大な頭骨は荒々しく口を開け、鋭い牙がずらり。「獲物を骨ごとバキバキと砕いて食べていた」と石垣教授。重量感あふれる姿は、同時に展示されるティラノの亜成体・ジェーンとも大きく違っており、「子どもから大人への変化を比較観察するのも面白い」。

岡山理科大が毎夏、ゴビ砂漠で続ける恐竜化石調査を体感してもらおうと、ベースキャンプで隊員たちが寝泊まりするテントや寝袋、化石発掘に使ったハンマーや刷毛なども展示予定。石垣教授は「モンゴルという、恐竜化石の宝庫をフィールドに持つ、岡山理科大の研究の一端に触れてもらいたい」と期待する。



岡山理科大が制作したタルボサウルスの全身骨格標本

世界大恐竜展には、モンゴル・ゴビ砂漠で恐竜化石調査を続ける国内屈指の研究拠点、岡山理科大(岡山市北区理大町)も協力。同大が誇る、アジア最大の肉食恐竜タルボサウルスの全身骨格標本が「参戦」する。

タルボサウルスは体長が10メートルを超す「アジアの恐竜王」(石垣忍教授)。北米に生息したティラノサウルスの仲間、ティラノより前脚が小さく、頭の骨の形も異なる。同大の前に恐竜研究を進めた岡山市のバイオ企業・林原がゴビ砂漠でタルボサウルスの子どもの全身骨格を発見(2006年)し、世界の注目を集めたことも記憶に残る。

出展する標本は、今春卒業した学生らが、授業や学外展示で使えるように卒業制作。ゴビ砂漠で発掘され